

土木建設業に関心持って



リモコンを使って無人ショベルカーを動かす三次青陵高生（左から3人目）

三次市大田幸町の三次青陵高2年生12人が、市

無人重機操作 「未来感じた」

三次青陵高生体験

馬洗川工事

た。国土交通省三次河川国道事務所や建設会社の加藤組（十日市東）が土木建設業界の人材確保

中心部の馬洗川のしゅんせつ工事現場で、最新の情報通信技術（ICT）を生かした無人ショベルカーの遠隔操作を体験し

につなげようと企画した。

無人ショベルカーは最大半径300メートルの範囲内で遠隔操作できる。現場のカメラ映像をモニター画面や顔に着けるゴーグル型ディスプレイで確認し、手元のリモコンでアームや土などをすくうバケットを動かす。離れた事務所からも操作でき、労働環境の改善や夏の熱中症対策に役立つ。

生徒は馬洗川の願橋付近の河岸に積まれた土の移動に挑戦。ゴーグル型ディスプレイを装着して約10メートル離れた場所から加藤組の補助員のサポートを受け、リモコンのレバーでアームなどを上下左右に動かした。古田空さん（17）は「技術の進歩に未来を感じた。こういう仕事も面白そう」と興味を持っていた。

（戸田剛就）